



詠古文孝經開宗明義章和歌

從一位政家

身體髮膚受于父母

あつたあはれいじくそこのもろかれたあつて

懐旧

あつていそひと十とをわたりいふこゝろはあつて

懐旧

あつていそひと十とをわたりいふこゝろはあつて

懐旧

あつていそひと十とをわたりいふこゝろはあつて

懐旧

あつていそひと十とをわたりいふこゝろはあつて

懐旧

懐旧





何れもあやめあはれしむらひしむらひ通ひるまゝなり

懐旧

雨と風の冷やりのみ十年のつらきあはれの間白雲

中記 夏口日原原要道 章年和歌

権中御言書親

敬具父則子悦

よきそとくを蒙られ世のあはれにけりまゝのあはれ

懐旧

今も昔もあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

小集 誠唐皇孫 章年和歌

権中御言書の種

四州のあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

懐旧

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

お供 百景り縁存平 章年和歌

西二宮教秀

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

懐旧

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

中記 百景り縁存平 章年和歌

権中御言書の種

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

懐旧

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

四景 春日同縁 二章年和歌

西二宮教秀

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

懐旧

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

三景

百景り縁存平 章年和歌

権大御言書

郊祀后稷吕配天

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん  
信田  
十の母のまことたのむ御しんうふのの今も  
ふり同孫古文を便むり

大藏卿経茂

父母生債章

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん  
信田

かふあふ十年は分ののふんふんふんふんふんふんふん  
信田 聴講石文を同孫應感章和叙

矢野誠基綱

宗廟致敬鬼神者也

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

信田

後又ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

國より同孫廣揚名章和叙

長孫中書

きんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

信田

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

海園門章和叙

龍霄

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

信田

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

信田 同孫謀許章和叙

信田の取書

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

懐石

りよそものゝあはれとてけしけれ今年のかつ積ぬれよ  
よき縁の口同縁華をきき幸にわらう

古は辨宣秀

とつころのまじいあはれとてかぬしとてまわれ  
懐石

かよつて愛のすまみよたかひをいふ人のそのま  
誅妻親き幸に和歌

新入僧は良鎮人

人のたおれよのいそはけいふいふはひとておのれなる  
懐石

まじらひのまじりいふていふまじらひとておのれなる

法成国宗十二回れとて辰よらひわらうとて  
つとむるのよき幸に幸に中へまじらひとて

ゆえにこのまじらひとていふとていふとて  
各題としておぼろげすあはれとて  
とていふとていふとていふとて  
おのれなるとていふとていふとて  
おのれなるとていふとていふとて  
おのれなるとていふとていふとて

桃花書葉華木后士

花と葉と文学化

あらしのふりさく花の影もよぼさずとほくも  
あはれとてさかき花の影もよぼさずとほくも  
しものあはれとてさかき花の影もよぼさずとほくも  
しものあはれとてさかき花の影もよぼさずとほくも  
しものあはれとてさかき花の影もよぼさずとほくも  
しものあはれとてさかき花の影もよぼさずとほくも  
しものあはれとてさかき花の影もよぼさずとほくも  
しものあはれとてさかき花の影もよぼさずとほくも

一夜夢魂如有神 斯 文花上醒猶新

從今風月入君手 幾記詞花言葉春 實隆

盖世傷風無不春 文林郁々筆花新

當時記付諠仙夢 今日金鑿處上人 章長

李花春風筆碎花 金鵝如支々如鴉

衙陰諷誦枚牀月 書葉日新又日如尚經

鼎來言葉昏君臣 掌上榮花自在春

夢入丹心文學子化子游子夏再通神政墨  
草及文章自四時花成詩思兼成詞  
儒風所化情無限燕綠鸞紅促興來為字

ワラ紫

長慶

ゆり花の心もなまぬらん

未摘花

長慶

何よ未摘花の芳のまはらん

紅花

長慶

まはらぬ花のまはらん

花れえ

長慶

二月やどのさくらも

あめ

長慶

まはらぬ花のまはらん

花

長慶

ゆり花の心もなまぬらん

あめ

長慶



三のし新よりや情一橋のむら松のころり

治之巻

家持

月のていさよむのえくを浪のむく治慶の海向

月石

親氏

海へ身と明夜の海守まきくまはのまら

みさくら

實福

整へぬも白帯のみさくらうううまのまら

まはら

種直

津も家よりぬおのあはれゆるたふさな

圓を

公古

まらくらくらむしむらむらむらむらむらむら

まらくらくら

宗飛

まらくらくらむらむらむらむらむらむら

むらむら

宗飛

まらくらくらむらむらむらむらむらむら

海之巻

系統

まらくらくらむらむらむらむらむらむら

むらむら

晴子

まらくらくらむらむらむらむらむらむら

しむら

勝賢

まらくらくらむらむらむらむらむらむら

むらむら

通興

まらくらくらむらむらむらむらむらむら

むらむら

兼春

まらくらくらむらむらむらむらむらむら

むらむら

春余

まらくらくらむらむらむらむらむらむら

むらむら

兼教

まらくらくらむらむらむらむらむらむら

むらむら

長久壽

清くしつらふらふとてはなほいふくまのぬぬ

かきと火

道安

かきと火のたきとてはなほいふくまのぬぬ

路

直感

かきと火のたきとてはなほいふくまのぬぬ

かきと火

石

かきと火のたきとてはなほいふくまのぬぬ

藤

習字定

かきと火のたきとてはなほいふくまのぬぬ

まね

何景宗

かきと火のたきとてはなほいふくまのぬぬ

梅

公彦

かきと火のたきとてはなほいふくまのぬぬ

しん

義亮

かきと火のたきとてはなほいふくまのぬぬ

かきと火

後白

かきと火のたきとてはなほいふくまのぬぬ

り

宣彦

かきと火のたきとてはなほいふくまのぬぬ

り

義後

かきと火のたきとてはなほいふくまのぬぬ

積

永相

かきと火のたきとてはなほいふくまのぬぬ

かきと火

名親

かきと火のたきとてはなほいふくまのぬぬ

かきと火

寛欽

かきと火のたきとてはなほいふくまのぬぬ

かきと火

えね

かきと火のたきとてはなほいふくまのぬぬ

かきと火

後白

用茶の味をよむるは、その味の上り下りを知るべし。

白梅の味

紹興

少くも、その味をよむるは、その味の上り下りを知るべし。

紅梅

酒

おもしろい味をよむるは、その味の上り下りを知るべし。

きんぎょ

名

おもしろい味をよむるは、その味の上り下りを知るべし。

花

花

おもしろい味をよむるは、その味の上り下りを知るべし。

花

花

おもしろい味をよむるは、その味の上り下りを知るべし。

あま

後

おもしろい味をよむるは、その味の上り下りを知るべし。

花

花

おもしろい味をよむるは、その味の上り下りを知るべし。

花

紹興

おもしろい味をよむるは、その味の上り下りを知るべし。

花

傳

おもしろい味をよむるは、その味の上り下りを知るべし。

まがねねと

道り

まがねねとまがねねとまがねねとまがねねとまがねねと

まがねねと

まがねねと

まがねねとまがねねとまがねねとまがねねとまがねねと

まがねねと

まがねねと

まがねねとまがねねとまがねねとまがねねとまがねねと

まがねねと

まがねねと

まがねねとまがねねとまがねねとまがねねとまがねねと

まがねねと

まがねねと

まがねねとまがねねとまがねねとまがねねとまがねねと

まがねねと

まがねねと

まがねねとまがねねとまがねねとまがねねとまがねねと

まがねねと

まがねねと

まがねねとまがねねとまがねねとまがねねとまがねねと

まがねねと

まがねねと



資直 仲子息

公頃 南都西室  
道遠院息

資直 富山路彈正少弼

通世 胤元 仲隆

宗澄 宗項の子  
宗項此時分地行

十二月十二日從場到來肖僧同到來弒先  
淡美と舒教回

この向をわらうはるそと友の家いまの住居よふとのまはる  
かゝる社のおのまゝのりりあゝやまのうゝあゝ

白子

